



明けましておめでとうございます

CTF 松阪会員の皆様におかれましては、穏やかな新年を迎えられたことと存じます。新型コロナウイルスが少し落ち着き始めたと思ったらインフルエンザの流行、ロシアのウクライナ侵攻やイスラエルのガザ侵攻等など、次から次へと難題が起こってきます。早く終わって欲しいものです！

今年は「辰年」ですね。中国では、辰は「ふるう、ととのう」を意味する「振」で、陽気が動いて万物が振動し、草木もよく成長して形がととのった状態を表すと解釈されています。活力旺盛になって大きく成長し、形がととのう年とのこと。いくつになっても挑戦して成長して行きましょう。



第32回松阪市障がい者作品展

昨年12月8日、9日と2日間に亘って松阪市障害者福祉センターにおいて、松阪市内全体の障がい者作品展が開催されました。手芸や編み物、陶芸、書道、絵画、ぬり絵、写真ほかが出展され、大勢の方々が見学されて大変盛況でした。CTF 松阪のスタッフが毎週火曜日午前、お手伝いしています「障がい者対象個人向けパソコン講座」からも5名の方々がカレンダーや年賀状を出展して頂きました。

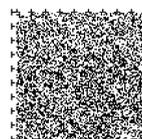
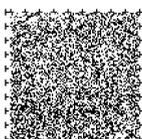


和紙の原料と製造方法

T・S

和紙の三大原材料である、①楮（こうぞ）、②三桠（みつまた）、③雁皮（がんび）、そして、トロロアオイ、トロロアオイは根の部分を原料として使用します。

和紙の歴史は、約 1400 年もの長いものです。和紙の製法は、5～6 世紀に中国から伝わりましたが、日本では独自に改良されて、様々な用途に合わせて発展してきました。和紙は、当初は国家や貴族のための貴重な品物でしたが、次第に武士や町人の生活にも浸透しました。また、仏教の普及にも大きく貢献しました。現在では、伝統的な和紙は文化財として保護されていますが、新しい技術や素材とも融合して、さまざまな表現や創作に活用されています。





活動報告

【12月】

障がい者対象個人向けパソコン講座

(19日)



活動予定

【1月】

障がい者対象個人向けパソコン講座

9日、16日、23日

松阪市障がい者福祉センター 9:30~11:30



徒然なるままに

稲作は弥生時代に始まった???

縄文時代とは、旧石器時代に続いて、約1万6000年前から約3000年前（2300年前という説もある）まで続いた時期を指す。

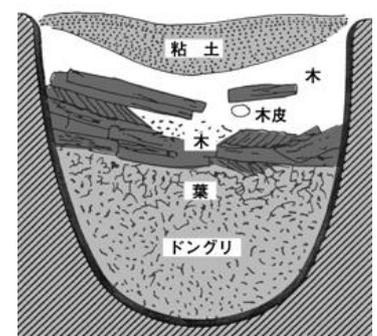
我々は米を主食としておるが、稲作は縄文時代の次の“弥生時代”に始まったと小学校や中学校の社会科で習った記憶があるのう。しかし、最近の研究で稲作は縄文時代の最後の方で大陸から伝わり、栽培されていたことが徐々に分かってきたのじゃ。新しい事実や証拠が発見されると歴史は書き換えられるぞ！

昭和35年以降、九州地方の縄文遺跡から発見され始め、今から約3000年前の縄文時代後期にはすでに大陸から稲作が伝わっていたことが明らかとなり、それよりも古い時代に原始的農耕が行われていた可能性さえあるそうじゃ。

(1)福岡県の板付(いたづけ)遺跡や(2)佐賀県唐津市の菜畑(なばたけ)遺跡などから、炭化した米や土器に付着したモミの圧痕、水田跡、石包丁、石斧といった農具、用水路、田下駄等が発見されたのじゃ。水流をせき止めて調整する柵(しがらみ)もあって、非常に整備された形で水稲耕作が行われていたようじゃ。こうした点から、すでに縄文晩期には、大陸で稲作を行っていた集団が稲作技術とともに日本に渡来して、稲作をおこなっていたと考えられるそうじゃ。

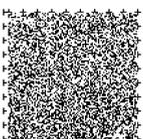
水田稲作技術が伝わる前は、イネをアワ、ヒエ、キビなどの雑穀類と混作する農業が行われていたようじゃ。菜畑遺跡では晩期の層から炭化米とともにアワ、オオムギといった雑穀類やアズキがみつかったおる。遺跡が台地にあることから、谷あいの湿地か畑でイネが栽培されていたのじゃろ？

イネが日本にもたらされる前、日本列島では狩猟、採集、漁労に大きく依存した生活が営まれておったが、以上のように、縄文時代の晩期、九州では灌漑(かんがい)による水田稲作がおこなわれる一方で、畑では陸稲や雑穀類の栽培がおこなわれていたようじゃ。各地に多くみられる縄文時代の遺跡から、地下の貯蔵穴(右図)に保存されたトチ、ナラ、クルミ、クリ、カシなどの堅果類が大量に出土しておる。このことから、食料の供給が不安定な狩猟・採集社会において、堅果類の保存により、食料の獲得が安定したと考えられるのう。さらに、クリ、オオムギ、エゴマ、ヒョウタン、豆類などが栽培されていたことも、遺物の分析からわかってきたそうじゃ。



縄文時代のドングリ貯蔵穴

【参考】米穀機構 米ネット





イルミネーション見学会に参加してみた

UP

みえ松阪マラソン前日のイベントとしてトンネル内のイルミネーション見学会が12月16日(土)に開催されたので参加してみた。

これは、マラソンコースの阿波曾蛸路トンネル壁面に映像や音楽を投影するというもので、トンネルをランナーたちが通るときに楽しめるという趣旨です。

地区内で見学会の参加希望者が70名程度ありましたので、バス1台をチャーターし2往復することになりました。往路は桂瀬のクリーンセンターからトンネル手前のコンビニまで、復路はトンネル出口の阿波曾側交差点でお出迎え、クリーンセンターまで搬送します。バスを降りてから乗るまで2.3kmのウォーキングになります。

14:30 開始にともない参加者が続々とトンネル前に集まってきました。トンネルの両サイドに大型発電機2台が稼働していました。いざ出発です。トンネル内は従来のライトは消灯され、壁面に動画が写し出されていました。通路の両サイドはLEDテープで道ができており、壁面には幼・小・中・高をはじめ企業・団体の動画がランダムに流れていました。ゆっくり歩いて20分程度の散策です。

このトンネルイルミネーション動画は公募しているので、来年は動画を作って応募してみたいかがでしょうか。



編集後記



年末バタバタしながらあつという間に新年を迎えることになりました。インフルエンザが全国的に流行期に入り、処方箋を受付けている薬局ではどの痛み止めなどの薬不足が深刻のようです。

2024年に期待するところも大いにありますが、本年もよろしくお願い致します。

皆様も体調管理にご留意ください。



CTF 通信第 250 号

2024 年 (令和 6 年) 1 月発行

発行者 IT を活用した障がい者支援 NPO 法人

CTF 松阪

発行責任者 山 田 則 男

住 所 〒515-0083

松阪市中町 6-9-1401

電 話 0598-26-6333

<http://ctf-matsusaka.sakura.ne.jp/>

